

著者紹介 (執筆順, *は編者。①所属, ②経歴, ③主要業績)

河本和子 (かわもと かずこ) [第1章/コラム6]

- ①一橋大学経済研究所ロシア研究センター専属研究員
- ②東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了
- ③「戦間期ソ連におけるコンセプションと対外経済関係——外国人の権利を通して」『国際政治』201号, 2020年。
『ソ連の民主主義と家族——連邦家族基本法制定過程1948-1968』有信堂高文社, 2012年。
『ロシア革命とソ連の世紀第3巻 冷戦と平和共存』(共著) 岩波書店, 2017年。

松寄英也 (まつぎき ひでや) [第2章/コラム1]

- ①津田塾大学学芸学部准教授
- ②上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程単位取得満期退学
- ③『民族自決運動の比較政治史——クリミアと沿ドニエストル』晃洋書房, 2021年。
「ウクライナにおける政軍関係の構造的変容——紛争後の国軍改革と自警団の台頭」『日本比較政治学会年報』23号, 2021年。
「オレンジ革命後のウクライナにおける半大統領制の機能不全——執政部門内の紛争の発生過程の解明」『ロシア・東欧研究』47号, 2018年。

長谷川雄之 (はせがわ たけゆき) [第3章]

- ①防衛省防衛研究所地域研究部研究員
- ②東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了
- ③「プーチン政権下の現代ロシアにおける大統領の「権力資源」——大統領府による重要政策の指揮監督」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』1037号, 2019年。
「プーチン政権下の現代ロシアにおける国家安全保障政策の形成——『プーチン・パートルシェフ・ライン』と安全保障会議附属省庁間委員会」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』1009号, 2016年。
「プーチン政権下の現代ロシアにおける政治改革と安全保障会議——規範的文書による実証分析」『ロシア・東欧研究』43号, 2014年。

立石洋子 (たていし ようこ) [コラム2]

- ①同志社大学グローバル地域文化学部准教授
- ②東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了
- ③「ロシアの愛国主義と自国史像——マンネルヘイムの記念彫刻をめぐる論争」『アジア太平洋研究』46号, 2021年。
『スターリン時代の記憶——ソ連解体後ロシアの歴史認識論争』慶應義塾大学出版会, 2020年。
『国民統合と歴史学——スターリン期ソ連における『国民史』論争』学術出版会, 2011年。

***溝口修平** (みぞぐち しゅうへい) [第4章／第9章／コラム3]

- ①法政大学法学部教授
- ②東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了
- ③『入門講義 戦後国際政治史』(共著)慶應義塾大学出版会, 2022年。
『連邦制の逆説?——効果的な統治制度か』(共編著)ナカニシヤ出版, 2016年。
『ロシア連邦憲法体制の成立——重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会, 2016年。

***油本真理** (あぶらもと まり) [第5章／第9章／コラム4・5]

- ①法政大学法学部教授
- ②東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了
- ③『現代ロシアの政治変容と地方——「与党の不在」から圧倒的一党優位へ』東京大学出版会, 2015年。
“The Politics of Anti-Corruption Campaigns in Putin’s Russia: Power, Opposition and the All-Russia People’s Front,” *Europe-Asia Studies*, 71(3), 2019.
『腐敗防止の国際規範とロシア——公職者の資産公開制度を事例として』『国際政治』199号, 2020年。

大申 敦 (おおぐし あつし) [第6章／コラム8]

- ①慶應義塾大学法学部教授
- ②グラスゴー大学大学院社会科学研究科政治学専攻博士課程修了
- ③ *The Demise of the Soviet Communist Party*, Routledge, 2008.
“Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Regime? Contextualization of the 2016 Duma Election,” *Russian Politics*, 2(3), 2017.
“The Opposition Bloc in Ukraine: A Clientelistic Party with Diminished Administrative Resources,” *Europe-Asia Studies*, 72(10), 2020.

安達祐子 (あだち ゆうこ) [第7章]

- ①上智大学外国語学部教授
- ②ロンドン大学 (UCL) 博士課程修了
- ③「プーチン政権下における国家産業支配と企業管理——現代ロシアのインフォーマル・ガバナンスの視点から」『比較経済研究』60号, 2023年。
『現代ロシア経済——資源・国家・企業統治』名古屋大学出版会, 2016年。
Building Big Business in Russia: The Impact of Informal Corporate Governance Practices, Routledge, 2010.

富樫耕介 (とがし こうすけ) [第8章]

- ①同志社大学政策学部准教授
- ②東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了
- ③『コーカサスの紛争——ゆれ動く国家と民族』東洋書店新社, 2021年。

「記憶」を「記録」する——あるシベリア抑留経験者のオーラル・ヒストリー（3）
『同志社政策科学研究』22巻2号，2021年。
『チェェン——平和定着の挫折と紛争再発の複合的メカニズム』明石書店，2015年。

長島 徹（ながしま とおる） [第9章]

- ①外務省国際協力局国別開発協力第一課課長補佐
- ②ロンドン大学スラブ東欧研究所修士課程修了
- ③「ロシアの二重国籍推進政策の再検討」『境界研究』13号，2023年。
「ソ連国籍はロシアに承継されるのか——90年代後半のロシアにおける国籍をめぐる議論と、その影響」『ロシア・東欧研究』49号，2020年。
“Russia’s Passportization Policy toward Unrecognized Republics,” *Problems of Post-Communism*, 66(3), 2019.

高橋沙奈美（たかはし さなみ） [コラム7]

- ①九州大学人間環境学研究院講師
- ②北海道大学大学院文学研究科博士課程修了
- ③『迷えるウクライナ——宗教をめぐるロシアとのもう一つの戦い』扶桑社，2023年。
『アジアの公共宗教——ポスト社会主義国家の政教関係』（共著）北海道大学出版会，2020年。
『ソヴィエト・ロシアの聖なる景観——ソヴィエト・ロシアの聖なる景観』北海道大学出版会，2018年。

藤澤 潤（ふじさわ じゅん） [第10章]

- ①神戸大学大学院人文学研究科准教授
- ②東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了
- ③「ソ連のコメコン改革構想とその挫折——1990-91年の域内交渉過程を中心に」『史学雑誌』130編1号，2021年。
『ソ連のコメコン政策と冷戦——エネルギー資源問題とグローバル化』東京大学出版会，2019年。
“The Soviet Union, the CMEA, and the Nationalization of the Iraq Petroleum Company, 1967-1979,” Anna Calori et al. (eds.), *Between East and South: Spaces of Interaction in the Globalizing Economy of the Cold War*, DeGruyter Oldenbourg, 2019.

加藤美保子（かとう みほこ） [第11章]

- ①広島市立大学広島平和研究所専任講師
- ②北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
- ③“Competing Sovereignty Regimes within Northeast Asia,” Akihiro Iwashita, Yong-Chool Ha and Edward Boyle (eds.), *Geo-Politics in Northeast Asia*, Routledge, 2022.
『『東方シフト』のなかの方向転換——米口対立下のロシアの東方政策と地域秩序への

インパクト』『ロシア・東欧研究』48号, 2019年。
『アジア・太平洋のロシア——冷戦後国際秩序の模索と多国間主義』北海道大学出版
会, 2014年。

長谷直哉 (はせ なおや)

[コラム 9]

- ①一般社団法人ロシアNIS貿易会モスクワ事務所所長
- ②慶応義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学
- ③「制裁下のロシア——『新たな現実』と中東へのアプローチ」『中東研究』546号, 2022年。
「先鋭化するロシアの制裁対抗措置」『ロシアNIS調査月報』67巻5号, 2022年。
「ロシアのガス輸出政策とガスパロム」『国際政治』176号, 2014年。

岡田美保 (おかだ みほ)

[第12章]

- ①防衛大学校総合教育学群教授
- ②防衛大学校総合安全保障研究科後期課程修了
- ③「日ソ国交回復交渉——「冷戦の受益者日本」の意味をめぐる交錯」『国際政治』209
号, 2023年。
「日ソ国交回復交渉の再検討——ソ連による日米安保の『受容』」『国際政治』200号,
2020年。

小泉 悠 (こいずみ ゆう)

[第13章]

- ①東京大学先端科学技術研究センター講師
- ②早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了
- ③『ウクライナ戦争』筑摩書房, 2022年。
『現代ロシアの軍事戦略』筑摩書房, 2021年。
『「帝国」ロシアの地政学——「勢力圏」で読むユーラシア戦略』東京堂出版, 2019
年。